

たいこ岩

永田小 六年 林 夏芽

私はかめんこ留学で屋久島に来た。屋久島
に来る前は「空気がおいしい」とが、「山登
りの後のお弁当がとてもおいしい」とが意味
が分からなかった。

屋久島に来て、屋久島杉ランドと白谷うん
すいきょうへ行った。たいこ岩に登ることに
なり下から見上げると、山が緑一色にそま
り、生き生きとした森が出むがえてくれる
ようだった。

車で細い山道を登っていくと、みぞりのす
き間からちらちらと光に照らされた宝石のよ
うな海が顔を出している。それがらしばらく
すると、さるやしが、鳥の大群が前を横ぎり、
頭上をゆうゆうとタカが飛んでいる。

白谷うんすいきょうに着いて車のドアを開
けると、冷めた空気体がすりぬけて山の
上の方に登り、まるで朝焼けのようすがす
がしく太陽が雲のすき間から光をそそいでい

- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは一きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくしよにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

- 4、と。は、それぞれ一字にかせて、「マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしただけを書きましよう。

(不許複製)



でいた。

山の中に入ると、こけからすべり落ちる雨
水が空や太陽、まゆりの木達、その水から私を
映してまるで鏡のようにかがやいていた。田
をつぶつて耳をすませばまゆりがらはトーザ
ガザアと水が流れていく音や鳥のさえずり、
雨水が地面に落ちる音が聞こえてきた。登り
はじめて三十分だんだん私の足どりは重くな
りはじめていた。そこに、木の根がはりつめ
て、階段をつくつてくれているようだった。

道に落ちている落ち葉をふんでみるとふかふ
かして少しあたたかく、それはまるで動物達
のベツトのようだった。細くてまがりくねっ
た道を歩くと、くもやあり、みみず達がいそ
がしく道を歩いていった。こけむす森はものの
けひめにでてくるような深いこけに包まれて
周り一面こけだらけだった。手でふれるとふか
ふかしたこけがとも気持ちよかった。
ぐぐり松の下をぬぐるときまるで木がとんね
るのようになってとてもおもしろかった。

- 1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくしよにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

- 4 と、とは、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいてもくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは二ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

かみなりおんじのあるところまで来た。か
 みなりおんじは名前のおりかみなりにうた
 れてしまった木だ。そのきずを見ているだけ
 で痛々しかった。つじとうげまで来てお弁当を食
 べた。屋久島へ来る前は山登りの後のお弁当が
 おいしかったが意味が分からなかつたけど、山
 登りの後のお弁当はいつもより十倍いや、それ
 以上おいしいものだつた。私はお弁当を食べな
 がら「屋久島ってなんていいところなんだろ
 う。」と感動した。頂上まであと少し、最後の
 カをふりしぼって登つた。きりの間から、想
 像もしなかつた大岩が姿を現した。私は上へ
 登つた。たいこ岩からは、キラキラ光る宝石
 のような海、生き生きとしたみどりの山、な
 にもがもが見えて、せつけいだつた。
 登るたびに変わって行く景しき。私は感動
 してずっととまゆりを見ていた。私は「またく
 るね。」と心の中ずたいこ岩に「さよなら」を
 言つた。

- 4 と、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなただけを書きましよう。

(不許複製)

